

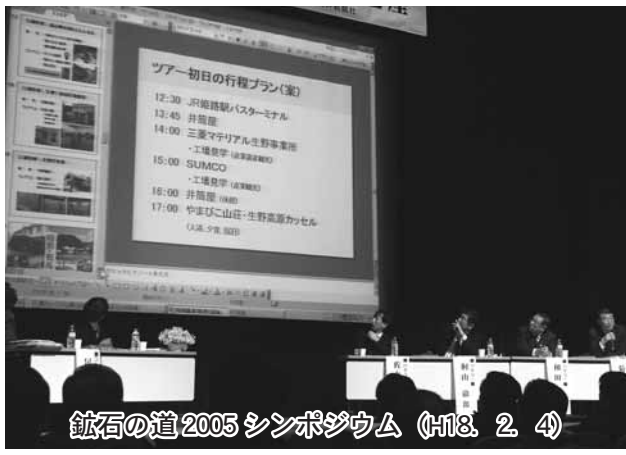
ている点にあります。
また、近代化の風は、新しい都市的な文化や伝統をもたらし、その鉱山町独特の住民気質は今も引き継がれています。

「鉱石の道」シンポジウムを開催

二月四日(土)には、あさご・さきゆりホールにおいて、鉱石の道2005シンポジウムが開催されました。

「鉱石の道」とは、朝来市の生野と神子畑、養父市明延の三鉱山を結ぶ、かつて鉱石が運ばれた道のこと、姫路へと続いていた「鉱山寮馬車道」(銀の馬車道)ともつながっています。

朝来市は、経済産業省の委託などを受けながらこの地域に存在する近代化遺産をネットワークで結び、空間全



鉱石の道2005シンポジウム (H18. 2. 4)

体をまるごと博物館にしようというオープンエア・ミュージアムの発想のもと、養父市や兵庫県、神戸大学などと連携して様々な保存活用に向けた調査検討を進めてきました。

シンポジウムでは、神戸大学工学部の足立裕司教授による「全国都市再生モデル事業」の調査報告に続いて、各担当者からモデル事業について具体例が提案され、今後の事業実現に向けた討議が行われました。

参加者は、「鉱石の道」をイメージした道路の修景案や、神子畑選鉱場に残る巨大なシックナー(排水処理施設)を活用した博物館などの提案に、熱心に耳を傾けていました。

市内に点在する近代化遺産

朝来市内には、鉱山関連施設のほかに、明治以降の近代化に大きく貢献した歴史遺産が数多く残されています。

今春に全線開通百周年を迎えるJR播但線和田山駅の構内にある機関庫は、美しいレンガ造りで切り石の大きなアーチの入口が二つ並ぶ代表的な鉄道建築物で、明治四十五年に建てられました。このほか、昭和初期に建築され内装に至るまで建築当時の面影を色濃く残す上垣医院や本町公民館(和田山町和田山)、山東町楽音寺にあるグンゼ梁瀬工場内の建築物、大正末期に建てられ旧山口村役場として使われた山口公民館などがあり、い



レンガ造りの和田山機関庫 (明治45年)

れも国登録有形文化財となる要件を十分に満たす大切な歴史遺産です。

市民との協働作業で活用を

旧生野町では、鉱山町独特の歴史遺産や町並み景観を生かしたまちづくりが進められており、住民組織によってトロッコ道の草刈りや景観まちづくりシンポジウムの開催、情報紙の発行や町並みガイドなどの活動が行われています。こうした動きなどもベースとなつて、産業遺産をめぐる観光ツアーに着目した地元のネットワーク組織をつくっていかうという動きも見られています。

また七月六日には、近代化遺産の活用を目的とした全国会議が朝来市で行われることから、全国に向けて情報発信していくこととしています。

朝来市民の誇りとこころ

朝来市内に存在する数多くの近代化遺産は、私たち市民の誇りとして、また地域イメージを確立するものとして大切に残していくとともに、現代生活に適応させながら再生し、地域の活性化や質的向上に役立てなければなりません。

未来の子ども達から預かった大切な財産として、市民みんなで知恵を出し合い、連携しながら積極的に活用していく必要があるでしょう。



市川とトロッコ道のアーチ (大正9年)

問い合わせ

●朝来市教育委員会社会教育課
電話 677・2116